

教育  
指導課心を一つにして奏でる  
第3回庄原市中学校合唱コンクール

11月21日、庄原市内全7中学校が一堂に会する合唱コンクールを庄原市民会館で開催しました。各学校が、課題曲「生命が羽ばたくとき」(作詞：人見敬子・作曲：西澤健治)と自由曲の2曲を披露しました。ハーモニーや歌詞に込められた意味の表現に、各学校の特色や工夫がありました。

生徒は、「大きな舞台で歌うのは緊張したが、みんなで力を出し切れた」「練習してきたことが本番ででき、各パートの音が響き合っていた」「中学校の最後の思い出に3年生みんなで心を一つにして歌えた」など、自分たちの当日までの取り組みを振り返りました。来場者からは、「中学生の元気の歌声にパワーをもらった」「庄原市の中学校の伝統として毎年の開催を望む」など、生徒の一生懸命な姿に感動した声が多く寄せられました。

合唱後には、地元コーラスグループ庄原混声合唱団「ひびき」の美しい歌声がコンクールに花を添え、閉会式で生徒と来場者全員で課題曲を合唱し、コンクールの幕を閉じました。参加した3年生が20歳になる5年後の成人式には、再び心を一つにして課題曲を合唱する予定です。



最優秀賞 比和中学校



特別賞 口和中学校

生涯  
学習課民俗芸能を守り伝えるために  
庄原市民俗芸能大会

講演する山本名誉教授



比婆荒神楽「鬼退治」

11月25日、庄原市東城文化ホールで第7回庄原市民俗芸能大会を開催しました。

舞台では比婆荒神楽保存会、比婆斎庭神楽保存会、比和町郷土芸能振興会、県立西城紫水高校神楽部が出演し、それぞれが伝承する民俗芸能を披露しました。約450人の来場者は、各地域で古くから伝えられてきた民俗芸能を堪能し、熱演に大きな拍手を送りました。東京から訪れた蒲原羽純さんは「映像や写真で見た民俗芸能を実際に見ることができてうれしい。現地で行われるときにはまた来たい。美しい地域と祭りがいつまでも残ってほしい」と話しました。

会場ロビーでは市内の民俗芸能を紹介する展示も行われ、来場者は保有団体の方々の解説を聞き、民俗芸能の世界に触れていました。ベトナムから来日中の夫婦は衣装の試着を体験し、「素晴らしい。日本の伝統を体験できて最高だ」と話しました。

同時開催した比婆いざなみ街道沿線文化財講演会では、和光大学名誉教授の山本ひろろさんが「未来へつなぐ、先人のこころ」と題して、全国の事例を交えながら民俗芸能への思いや魅力を語りました。終盤には小奴可地区芸能保存会の和田満福会長、三河内郷土芸能保存会の富永隆司会長との座談会が行われ、それぞれが保有する「塩原の大山供養田植」と「三河内刀踊り・扇踊り」を未来へつなぐための意見が交換されました。